

百歳賀寿 未永く お元気で

●大越 竹子さん (写真：上)

滝根町広瀬の大越竹子さんが、10月28日に満百歳を迎えられました。

若い時は葉たばこやインゲンの栽培、畜産(乳牛)を営み、70歳になってから始めたゲートボールは、仲間と共によく練習し、数々の大会に出場されたそうです。自宅にはたくさんのメダルが飾られていました。

長寿の秘訣は「親が丈夫な体に産んでくれたこと」だそうです。



●横田 ミネさん (写真：下)

常葉町鹿山の横田ミネさんが、11月9日に満百歳を迎えられました。

9人姉弟の長女であるミネさんが家を継ぎ、水稻、葉たばこ栽培などの農業を営みました。鎌、鍬しかない手作業の時代は特に苦勞されたそうです。

長寿の秘訣は「一生懸命働き、よく食べ、よく寝ること」だそうです。

福島県、田村市、田村市社会福祉協議会などからお二人に賀寿や祝金などが贈られました。



銅賞受賞 市産ホップを使ったビールが国際ビール審査会で銅賞を受賞

11月4日、グリーンパーク都路内のビール醸造所でブルワリー開園1周年記念式典が行われ、関係者がクラフトビール生産が順調に行われている状況を確認し、祝いました。

式典席上、市長から市産ホップを使ったクラフトビールが、権威ある国際ビール審査会「インターナショナル・ビアカップ2021」で銅賞を受賞したことが紹介されました。

同施設はクラフトビール醸造のほかにも、都路町の復興促進と交流拡大の拠点として発展しつつあります。



6次化商品開発 都路町商工会がさつまいもの6次化商品を開発

都路町商工会が運営する「みやこじスイーツゆい」では、市が生産振興を進める「さつまいも」を使用した6次化商品の開発を促進しています。

今年度上半期の「さつまいもスイートポテト」に続き、下半期には主力商品のプリンと合わせ「さつまいもプリン」として仕上げ販売を開始しました。

市内の生産者から、約2カ月熟成させ甘みが増したさつまいも(品種：紅はるか)を納入いただき、都路産の卵とともに加工しています。新たな市特産品となることを目指します。



出張販売 県内各地で市産農産物などをPR販売

県内各地で市産農産物の販売会が開かれ、田村市ブランド産品をはじめ新鮮な農産物を販売しました。いわき市の鹿島ショッピングセンター(エブリア)での販売会では、1,000円以上お買い上げいただいた方へ、田村市産ピーマンが配られ、多くの人々へ市産産物をPRしました。

- 10月9日：JA福島さくら農産物直売施設 あぐりあ(郡山市)
- 10月10日：道の駅なみえ(浪江町)
- 10月23・24日：鹿島ショッピングセンター エブリア(いわき市)



民話まつり 田村地方に伝わる民話を披露

10月9日、田村民話の会が主催する「田村民話まつり」が大越公民館で開かれ、8人の語り部が民話を披露しました。

田村地方に伝わる民話「猫檀家」「ふるやのむる」「貧乏百姓と芸者」などが語られ、お客さんは、心温まる話、不思議な話、少し怖い話に聞きほれていました。

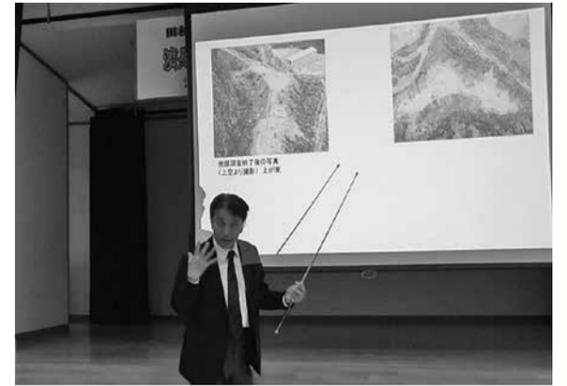


歴史講演会 大越鳴神城の歴史を学ぶ

10月24日、大越地方史研究会が主催する「発掘調査にみる広瀬大越城と大越鳴神城との関係」と題した歴史講演会が、大越公民館で開かれました。

講師に市教育委員会の逸見克己さんをお招きし、発掘調査から分かったそれぞれの城の特徴などを解説いただきました。

参加した方からは、大越鳴神城の歴史を感じられた、鳴神城が市民の憩いの場になればよい、などの声が聞かれました。



奉仕作業 シルバー人材センター奉仕作業、熟練の技が光る!

10月16日から28日、シルバー人材センターは、市内の公共施設周辺の草刈りや樹木の剪定などの奉仕作業を行いました。

会員の皆さんの熟練した技でまちをきれいにしていただきました。

シルバー人材センターでは、毎年10月を事業普及啓発月間とし、奉仕作業や普及啓発活動を行っています。

